

パレスチナの空で星になった日本のコマンドー

2020年12月8日

Hossam Abdel Karim-Al-Mayadeen Channel (マヤディーン・チャンネル)

(注) 著者ホッサム・アブドルカリームは、ヨルダン出身の作家・研究者です。この文章は2020年12月8日、ペイルートに拠点を置き、パレスチナ問題を中心に据えている独立したアラブの衛星ニュースチャンネルであるマヤディーン・チャンネルのブログに掲載されたものです。

これは事実であり、千と一夜の物語からではありません。私たちの関係がほとんど車とカメラに限定されているのは日本です。この日本は、20世紀で最も有名なパレスチナのゲリラ作戦の1つである、オペレーション・リッダ空港(現在はベングリオン空港と呼ばれています)を実行した戦闘員のグループを生み出しました。



1972年5月30日、3人の戦闘員からなる日本の「コマンドー」グループがリッダ空港を襲撃し、攻撃しました。グループは5つの手榴弾を落とし、そのうち3つは空港に駐車した航空機に衝突し、もう1つは空港の税関を標的とし、5つ目は空港の駐車場で爆発しました。その結果、26人のイスラエル人が殺され、80人以上が負傷しました。爆弾が投げられた後、グループは空港から撤退し、途中でアルラム刑務所近くのイスラエルのパトロールと衝突しました。衝突により、パトロールの5人のメンバーが負傷しました。

日本のゲリラ2人は殉教し、奥平剛士(コード名はバーシム)と安田安之(サラーム)、3人目は岡本公三(アーメド)を捕らえた。この作戦は、ペイルート空港を攻撃し、そこで飛行機を破壊するという「イスラエル」の攻撃に応じて、パレスチナ解放のためのPFLPによって計画されました。これらの日本のゲリラは、共産主義者同盟に所属する革命組織である日本赤軍に属しており、地球上のすべての抑圧された人々を支援し、この世界の植民地および帝国主義勢力によって行われる不正と抑圧に対して世界的な革命を起こす任務を引き受けました。パレスチナの正当な原因と、主要国に支えられたシオニスト運動の手による国民の抑圧と追放は、この革命的な組織の注目を集め、当時のレバノンのパレスチナ革命の勢力、特にPFLPと緊密な関係を築きました。

私たちの言葉は、彼の2人の仲間のように、生き残る見込みのないその任務で死ぬ準備ができていたにもかかわらず、シオニストの手に渡る運命にあった捕虜のコマンドー、岡本公三に焦点を当てます。



彼の裁判のためにセッションが開かれ、彼は彼を試みていた裁判官に、「私は日本赤軍の兵士であり、世界革命のために戦っています。私が死ぬと、私は空の星に変わります」と語った。

もちろん、彼らは岡本公三を恐ろしいシオニスト刑務所の厚い場所に変えるために、有名な人

生の判決で命を宣告されました。そして、神だけが、岡本公三が刑務所と呼ばれるその食肉処理場の中で受けた拷問の種類を知っています。彼は、1985年に彼が再び自由になった年になるまで、13年間シオニストモンスターの独房にとどまりました。PFLP 総司令部は、シオニスト組織との大規模な囚人交換協定(ガリリー作戦)で解放されるパレスチナの囚人のリストに岡本公三を含めることを主張した。



PFLP は、レバノンのベカーでの大祝賀会でリリースされたヒーローを歓迎し、彼を肩に乗せましたが、シオニスト刑務所から出た彼は、13年前に彼に入った人ではありませんでした。人間の幽霊が現れ、完全に粉碎され、ひどい肉体的および精神的障害に苦しんでいます。彼らは彼を肉体的および精神的に破壊した。

彼を迎えてくれた PFLP 幹部の一人は、「彼は手を使って食べることができず、スプーンやナイフをうまく使うことができず、むしろ手をうまく使うことができなかった。そして彼は顔を洗う、歯を磨く、入浴するなどの日常生活システムのすべての知識を失った。PFLP の医師は、「背中が曲がり、足がアーチ状になり、歯が炎症を起こし、口が黒く見えるように曲がり、精神障害を患っていたため、自分を表現できず、考えることも集中することもできず、泣き叫び、恐怖を裏切る奇妙な音を立て、激しい神経発作に苦しんだ」と付け加えた。彼はどんな地獄に住んでいたのか、そして彼が「イスラエル」の刑務所の中でどんな苦痛を経験したのか！

まるで岡本公三が苦しんだことは十分ではなかったかのように。彼が医者と薬の処方箋で落ちて謙虚に暮らしていた後、彼の古い日本の同志のグループを伴った彼の釈放以来、1997年にラフィク・ハリリ首相のレバノン政府はレバノン・ベカーの彼の家を襲撃し、彼と彼の仲間を「違法な住居」の罪で逮捕しました！これは、日本政府からの圧力の下で起こりました。日本政府は、指名手配された男と見なされ、彼を逮捕しようとしています。

ラフィク・ハリリ首相は、岡本公三を擁護するキャンペーンを組織した弁護士、知識人、左翼党のメンバー、レバノン国軍の大規模なグループがいなければ、彼を日本に引き渡そうとしました。レバノンの法律に違反している！2000年に刑務所から釈放された後、レバノン政府は彼に政治的亡命の権利を与え、彼がレバノンに居住することを許可することに同意しなければなりません。再び内圧のため(レバノンの若者のグループが内務省の反対側で公然と座り込み、岡本公三の政治的亡命を要求した)、しかし彼が政治的または公的活動を行わず、報道やメディアのインタビューが行われなかったという条件で。



それ以来、岡本公三は、彼を後援し、彼の日常生活の単純な要求を手伝ってくれるPFLPのメンバーの後援の下、ベイルートのシンプルなアパートに住んでいます。ときどき、粉々になった男の瓦礫の中から、76歳の公三は、人間が破壊されたが敗北していないことをシオニストの処刑人に証明するために甘い笑顔を見せます。

神よ！パレスチナよ、あなたはどれほど貴重であり、あなたの大義はどれほど公正であるか！奇妙で

遠い人でさえ、あなたのために大切に貴重な犠牲を払っています。

岡本公三は、空の星に変わる日を待っている…そして、実際に心の真ん中で星になり、パレスチナの空の太陽に変わったことを知らない…。岡本公三が最後に公開されたのは、2016年にレバノンのPFLPで開催された彼を称える式典でした。